

産業の発展を支える 審査官として

特許審査第二部自動制御 矢萩 牧子



ただいまご紹介にあずかりました、矢萩牧子と申します。僭越ではございますが、平成20年度入庁通常採用者54名を代表してご挨拶申し上げます。

はじめに、ご来賓の皆様方におかれましては、ご多忙中ご出席頂き、たくさんの温かい励ましのお言葉を下さいましたことを、厚く御礼申し上げます。また、これまでの研修や実務などの様々な場面でご指導下さいました講師の先生方並びに、指導教官の方々、諸先輩方にも、この場をお借りして御礼申し上げます。

さて、私たちは今年の4月に社会人としての一步を踏み出しました。そして、この3ヶ月の間、毎日多くのことを教えて頂き、自分の世界が広がっていく喜びを感じながら、研修に務めてまいりました。

4月に行われた国家公務員合同初任研修では、他省庁の同期とともに、国家公務員としてどのように日本を支えていくかについて議論を重ね、交流を深めて参りました。また、審査官補研修においては、知的財産とは何か、から始まり、特許審査の進め方や、特許庁に期待される役割について学びました。そして、その後の実務研修においては、特許審査の奥深さ、難しさを実感するとともに、特許権という強力な権利を与えるかどうかを判断することの責任の大きさを改めて認識致しました。

そして、このような研修を経て、この7月1日より審査官補に昇任し、今後はより本格的な審査業務に関わっていくことになります。

知的財産の重要性が年々高まるなかで新しく入庁した私達には、「迅速な審査」と「質の高い審査」を両立することが求められています。その期待に応えるために、私達一人一人が日々の業務に真剣に取り組み、1つの専門分野に限らない幅広い視野と、発明の本質を見抜く力を身につけるべく、研鑽を積んでいきたいと思っております。

また、「世界特許」の実現に向けて国際調和が進むなかで、世界最先端の知財立国である日本には、世界をリードすることが求められています。私達も、日本国内だけでなく、国際的な視点を常に持ちながら、一丸となって世界の科学技術の発展・産業の発展に貢献していきたいと思っております。

まだまだ未熟な私達ですが、初心を忘れることなく、互いに切磋琢磨し、一日も早く一人前の審査官となって産業の発展を支えられるよう努力していく所存であります。これからもどうぞご指導ご鞭撻の程よろしくお願い致します。

本日は誠にありがとうございました。